

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十年四月度 入選句（投稿総数九百七十七句・小中学投句数三百五十七句）

### 特選

選者 高木 佐知子

卒業式 ぼくの歴史の 一 ページ 大垣市 関谷 晃介(中二)

「卒業式」という春の季語で詠まれている俳句は数多くありますが、卒業式を「ぼくの歴史の 一 ページ」と力強く詠んだところにひかれます。小学校の六年間で身に付けたことを自信として、四月から始まる中学生としての生活に希望をふくらませている作者の姿が目には浮かびます。中七・下五が明るく綴られ、読み手に元気を与えているところがよいです。

たんぼぼをつんでままごとやりたいな 愛知県新城市川合 璃子(小二)

道ばたや空き地に黄色い花を咲かせているたんぼぼが、作者の目にはかわいらしく見えたのでしよう。ままごとがしたくなって、黄色い花を何に使おうかと考えている顔も笑顔になっていくのが思い浮かびます。中七の「つまんで」という言葉のかわいらしさとたんぼぼの明るさが重なり、あたたかい春の野に誘われるような楽しい気もちになれる一句です。

しゃぼん玉わたしがにげておにごっこ 大垣市 堤 彩 奈(小四)

自分の吹いたしゃぼん玉が風に吹かれて自分の方に飛んできたのでしよう。しゃぼん玉に追いかけられ、逃げるように場所を移動してもなおしゃぼん玉を吹き続ける姿が想像できます。太陽の光をあびて七色に輝くしゃぼん玉は見えていても飽きることはありません。その楽しさを「おにごっこ」と表現しているところが素敵です。

### 秀逸

春風があいさつをしにやってきました 大垣市 梅田 優有(中二)

登下校草かきわけてつくしんぼ 大垣市 加藤 悠花(中二)

卒業式歌う校歌はなみだ声 大垣市 廣瀬 涼雅(中二)

桜たち流れにのって旅に出る 大垣市 西本 多恵(中二)

さくらちりかわがびんくにそまったよ 大垣市 大橋 明紗(小二)

うぐいすがホーケツコとうたってる 大垣市 田邊 葉奈(小二)

あつたかいほつぺをなでるはるのかぜ 大垣市 伊藤 杏(小二)

ゆきだるまらいねんもまたあそぼうね 大垣市 三摩 昊生(小二)

つくしがねよんでるみたい風ふいて 大垣市 高橋 未唯南(小四)

しゃぼん玉自分の顔にそっくりだ 大垣市 高田 琴心(小四)

入選

たいようがかぜをあたたためはるかぜに	大垣市	狩野	要(中二)
六年の思い出もって卒業だ	大垣市	小林	奈央(中二)
桜咲き新しい制服中学生	大垣市	新屋	ジェシカ(中二)
桜まう大きな夢だき旅立つ日	大垣市	羽田	隼大(中二)
卒業の朝ぼんやりとランドセル	大垣市	平田	ひなの(中二)
うぐいすの声の音符をたどりつつ	千葉県印旛郡	寺嶋	董(小四)
きょうだいがさくらの下で写真とる	大垣市	秋吉	桃歌(小五)
くさむしりどんどんはえてきりがない	大垣市	久保田	華帆(小二)
しゃぼんだまどこまでとんでいくのだろ	大垣市	はやの	はるき(小二)
チューリップかぜといっしょにおどってる	大垣市	ひさとみ	たける(小二)

入選

かえるがねジャンプしたけどおっこちた	大垣市	こんどう	なるき(小二)
たんぼぼがゆらゆらおどるみんなでね	大垣市	栗田	莉沙(小二)
うららかな日差しを浴びて白桜	大垣市	炭竈	太希(小五)
スクリューに水草からむ春の川	大垣市	大橋	叶夢(小六)
つくしさんぼかぼかようきかおをだす	大垣市	まぶち	あいり(小二)
このふねにのりたかったよさくらちる	瑞穂市	青山	結奏(小三)
おにいちゃんサクラがさいたら中学生	大垣市	渡邊	志織(小四)
ねこの子の夢の中にはかつおぶし	大垣市	岩永	丈太郎(小四)
こいのぼりみんなそろって泳いでる	大垣市	秋山	丈(小四)
春休み校庭なんだか広くなる	愛知県一宮市	菊池	海音(小四)

選者吟

自転車の列を追い越す春の風

佐知子